

平成21年全国消費実態調査 <総務省統計局>

《二人以上の世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果》(うち勤労者世帯)
滋賀県の1世帯当たり消費支出は前回(平成16年)から5.5%減少
貯蓄現在高は前回比7.3%増、負債現在高は前回比24.4%減

■はじめに

全国消費実態調査は、国民生活の実態について、家計の収支及び貯蓄・負債、耐久消費財、住宅・宅地などの家計資産を総合的に調査し、全国及び地域別の世帯の消費・所得・資産に係る水準、構造、分布などを明らかにすることを目的として、昭和34年の第1回調査以来5年ごとに実施しており、今回で11回目の調査です。

平成21年に実施された調査のうち、主要耐久消費財に関する結果については、すでに平成22年10月号で紹介しましたが、このたび、平成21年9月から11月までの3か月間調査した二人以上の世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果が総務省統計局から公表されましたので、その概要を紹介します。

調査の対象は、全国の全ての世帯(ただし、学生の単身世帯等は除く。)の中から一定の統計上の抽出方法で選定された二人以上の世帯の52,404世帯が調査されました。なお、滋賀県は、二人以上の世帯720世帯が調査されました。

I 主な調査結果(滋賀県)

《二人以上の世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果》

《平成21年9月～11月の1か月平均、二人以上の世帯のうち勤労者世帯》

- ◎ 実収入は 486,427円(全国14位)で、前回に比べ 9.6%の減少(全国は5.6%減)
- ◎ 消費支出は 337,112円(全国8位)で、前回に比べ 5.5%の減少(全国は5.6%減)

《平成21年11月末現在、二人以上の世帯のうち勤労者世帯》

- ◎ 貯蓄現在高は 1475万6千円(全国4位)で、前回に比べ 7.3%の増加(全国は2.1%減)
- ◎ 負債現在高は 651万3千円(全国16位)で、前回に比べ 24.4%の減少(全国は2.9%減)

表1 二人以上の世帯の1か月平均消費支出等(滋賀県、全国)

	滋賀県							全国			
	平成21年	全国順位	平成16年	全国順位	対前回差	対前回増減率	平成21年	平成16年	対前回差	対前回増減率	
二人以上の世帯	集計世帯数(世帯)	707	—	709	—	△2	△0.3	50,836	53,112	△2,276	△4.3
	世帯人員(人)	3.26	10位	3.46	10位	△0.20	△5.8	3.10	3.26	△0.16	△4.9
	有業人員(人)	1.55	16位	1.52	27位	0.03	2.0	1.43	1.49	△0.06	△4.0
	世帯主の年齢(歳)	55.5	24位	52.8	41位	2.7	—	55.4	53.7	1.7	—
	消費支出(円)	323,344	5位	339,670	7位	△16,326	△4.8	300,936	320,063	△19,127	△6.0
	集計世帯数(世帯)	684	—	686	—	△2	△0.3	48,317	50,810	△2,493	△4.9
	貯蓄現在高(千円)	17,454	8位	16,738	11位	716	4.3	15,208	15,557	△349	△2.2
負債現在高(千円)	5,749	7位	6,558	6位	△809	△12.3	5,433	5,844	△411	△7.0	
うち勤労者世帯	集計世帯数(世帯)	410	—	456	—	△46	△10.1	28,865	31,025	△2,160	△7.0
	世帯人員(人)	3.57	9位	3.76	5位	△0.19	△5.1	3.37	3.52	△0.15	△4.3
	有業人員(人)	1.81	17位	1.76	23位	0.05	2.8	1.71	1.70	0.01	0.6
	世帯主の年齢(歳)	48.5	10位	46.4	34位	2.1	—	47.6	46.5	1.1	—
	実収入(円)	486,427	14位	538,089	6位	△51,662	△9.6	474,199	502,114	△27,915	△5.6
	消費支出(円)	337,112	8位	356,598	8位	△19,486	△5.5	320,128	339,212	△19,084	△5.6
	集計世帯数(世帯)	396	—	439	—	△43	△9.8	27,575	29,688	△2,113	△7.1
貯蓄現在高(千円)	14,756	4位	13,753	10位	1,003	7.3	11,779	12,037	△258	△2.1	
負債現在高(千円)	6,513	16位	8,617	4位	△2,104	△24.4	6,796	6,996	△200	△2.9	

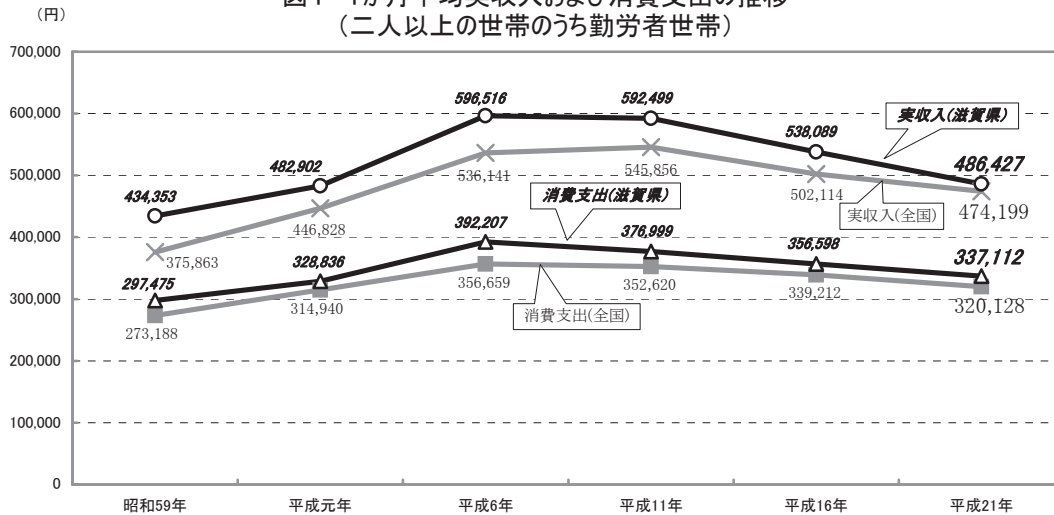
Ⅱ 調査結果の概要説明(滋賀県)

1. 二人以上の世帯のうち勤労者世帯の家計収支 《1世帯あたり1か月平均》

～実収入は前回比9.6%減、消費支出は前回比5.5%減といずれも平成11年以降減少中～

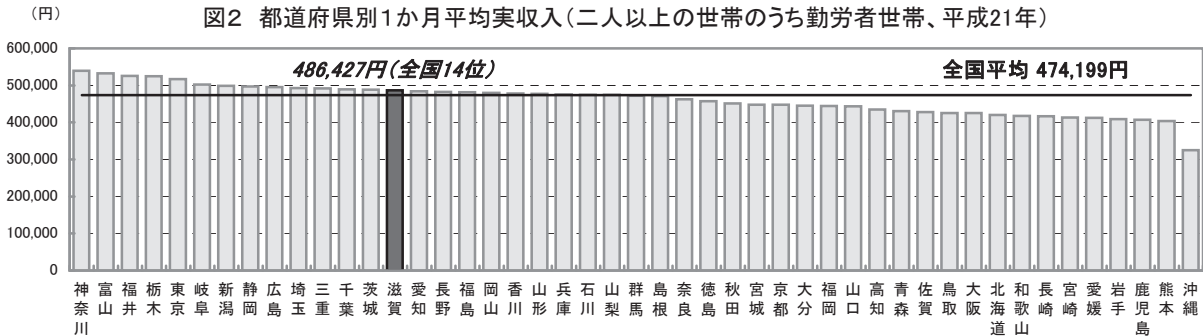
平成21年の滋賀県の二人以上の世帯のうち勤労者世帯(平均世帯人員3.57人、世帯主の平均年齢48.5歳)の実収入は、1世帯当たり1か月平均486,427円(全国14位)で、前回に比べ9.6%減と平成11年以降減少が続いています。一方、消費支出は、1世帯当たり1か月平均337,112円(全国8位)で、前回に比べ5.5%減と平成11年以降は減少が続いています。(図1, 2, 3)

図1 1か月平均実収入および消費支出の推移(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



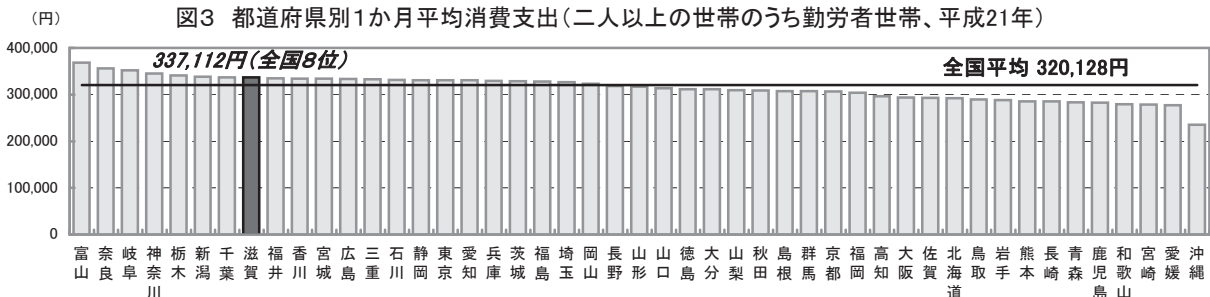
● 「実収入」滋賀県は全国14位、神奈川県が最も多く、沖縄県が最も少ない

図2 都道府県別1か月平均実収入(二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21年)



● 「消費支出」滋賀県は全国8位、富山県が最も多く、沖縄県が最も少ない

図3 都道府県別1か月平均消費支出(二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21年)



(1) 費目別消費支出 ≪1世帯あたり1か月平均≫ ～「教育」は増加傾向～

平成21年の滋賀県の消費支出を10大費目別にみると、「その他の消費支出」が79,587円と最も多く、次いで「食料費」が74,061円、「交通・通信」が50,556円、「教養娯楽」が33,701円、「教育」が28,310円などとなっています。(図4)

前回との増減差をみると、「教育」が2,596円増、「住居」が1,141円増など3費目で増加しましたが、「その他の消費支出」が10,290円減、「食料」が3,917円減、「保健医療」が2,916円減など7費目で減少しました。(図5)

前回との増減率をみると、「教育」が10.1%増と最も増加し、次いで「住居」が7.2%増などとなり、一方、「保健医療」が20.3%減と最も減少し、次いで「家具・家事用品」が19.3%減、「その他の消費支出」が11.4%減などとなっています。(図6)

図4 費目別1か月平均消費支出の推移 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)

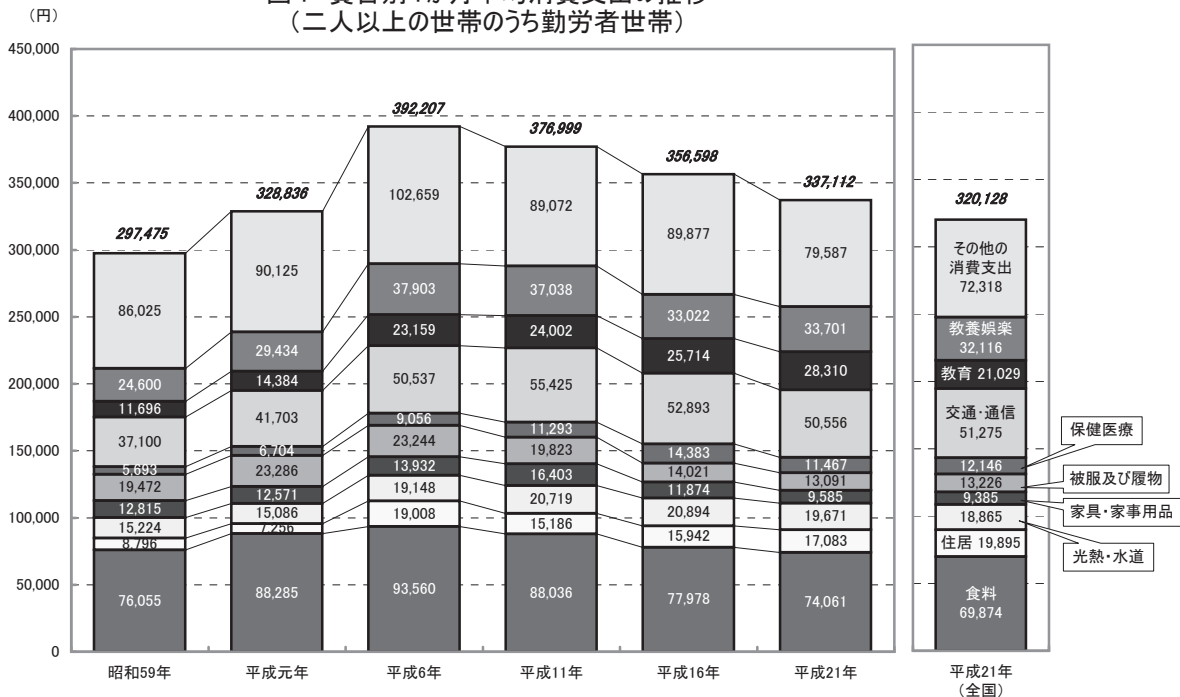


図5 消費支出の費目別対前回増減差<滋賀県、全国> (二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21-16年)

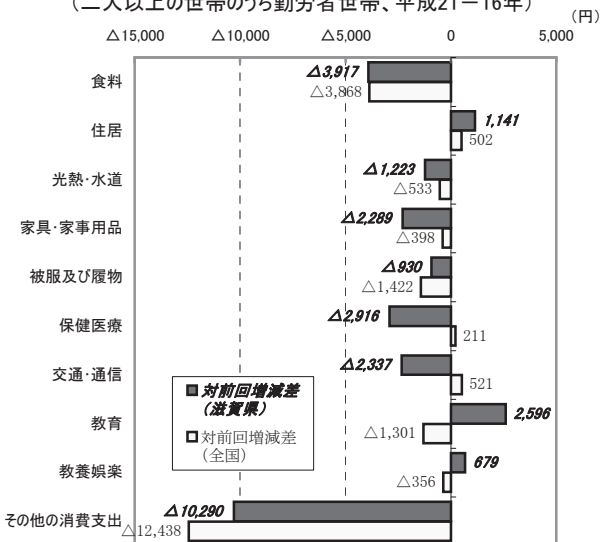
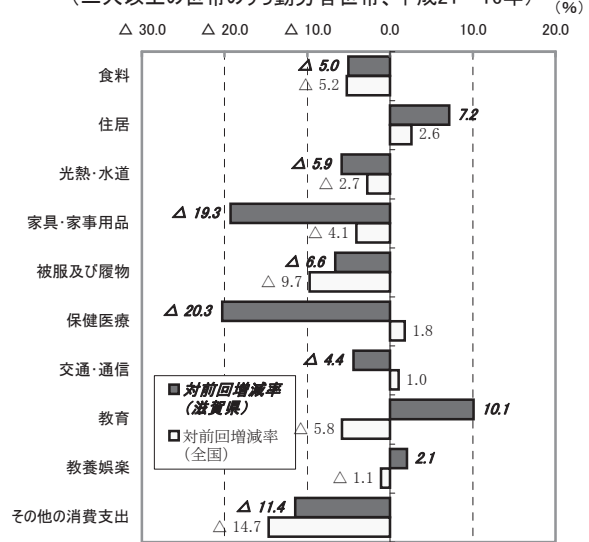


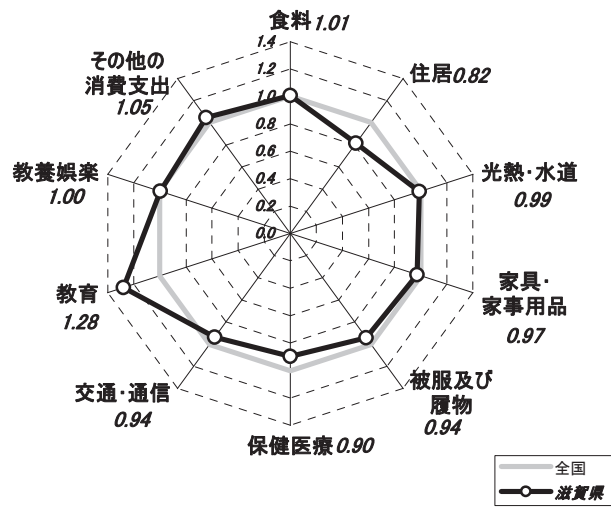
図6 消費支出の費目別対前回増減率<滋賀県、全国> (二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21-16年)



●消費支出の費目別特化係数 ～全国に比べ「教育」の比重が大きい(全国1位)～

平成21年の滋賀県の消費支出を10大費目別特化係数^{※1}で見ると、全国に比べ「教育」、「その他の消費支出」などの比重が大きく、「住居」、「保健医療」、「交通・通信」、「被服及び履物」などの比重が小さくなっています。特に「教育」は、都道府県別消費支出で見ると、全国1位となっています。(図7)

図7 消費支出の費目別特化係数
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21年)



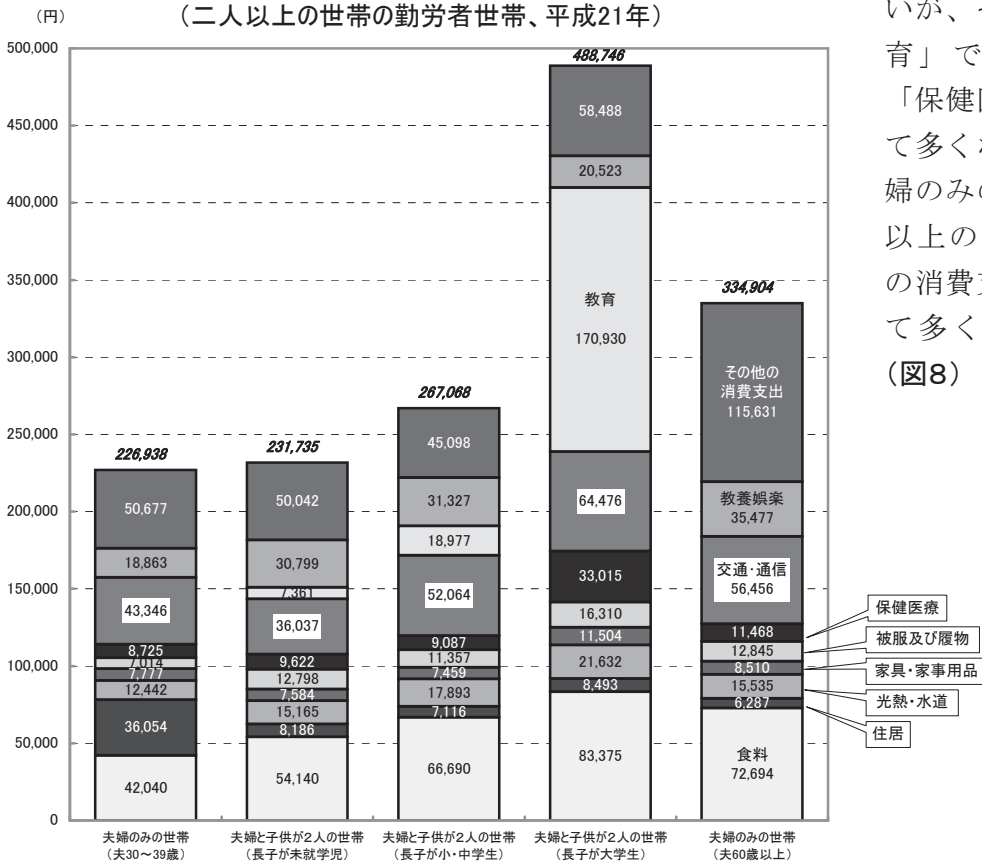
※1 費目別特化係数とは、各費目構成比に対応する全国の構成比で除したもので、全国水準を1とし、1を超えると全国水準より比重が大きく、本県が特化した費目となります。

(2) 家族類型別消費支出 ≪1世帯あたり1か月平均≫

平成21年の滋賀県の消費支出を家族類型別にみると、夫婦のみの世帯で夫が30～39歳の場合は、他に比べて「住居」が多く、夫婦と子供が2人の世帯で長子が大学生の場合は、

飛び抜けて消費支出が多いが、その大部分は「教育」であり、そのほか「保健医療」も他に比べて多くなっています。夫婦のみの世帯で夫が60歳以上の場合、「その他の消費支出」が他に比べて多くなっています。

図8 家族類型別1か月平均費目別消費支出
(二人以上の世帯の勤労者世帯、平成21年)

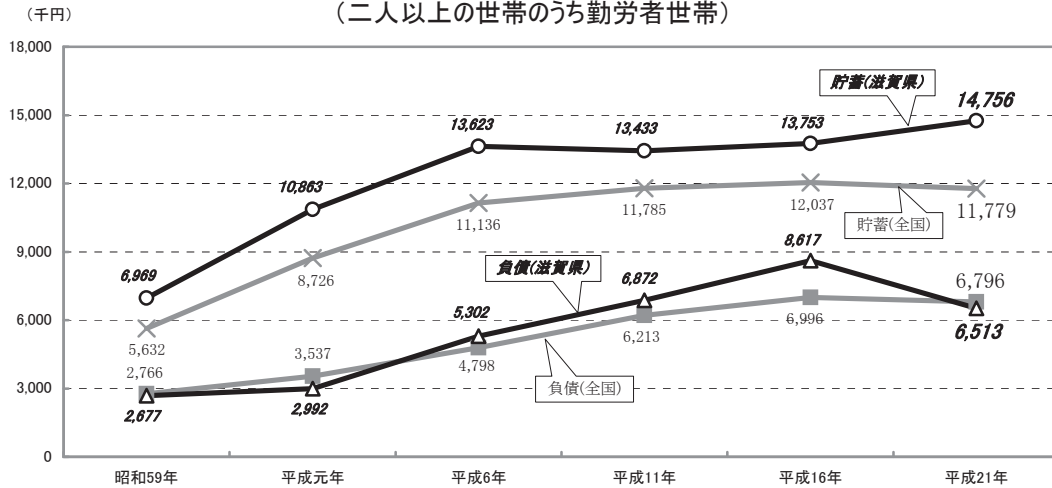


2. 二人以上の世帯のうち勤労者世帯の貯蓄・負債現在高 <<平成21年11月末現在>>

～貯蓄現在高は前回比7.3%増、負債現在高は前回比24.4%減～

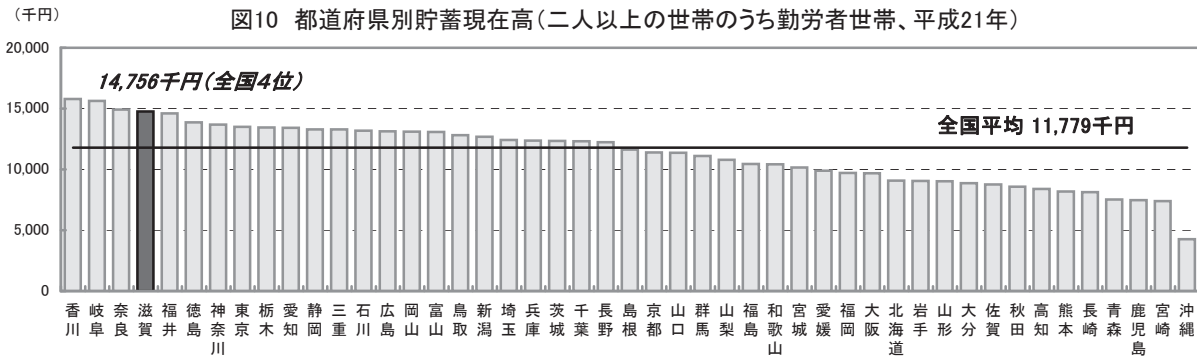
平成21年の滋賀県の二人以上の世帯のうち勤労者世帯の貯蓄現在高は、1世帯当たり1475万6千円(全国4位)で、前回に比べ7.3%増と前回に続き増加しています。一方、負債現在高は、1世帯当たり651万3千円(全国16位)で、前回に比べ24.4%の減と前回までの増加傾向から減少に転じました。(図9, 10, 11)

図9 1世帯当たり貯蓄現在高および負債現在高の推移
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



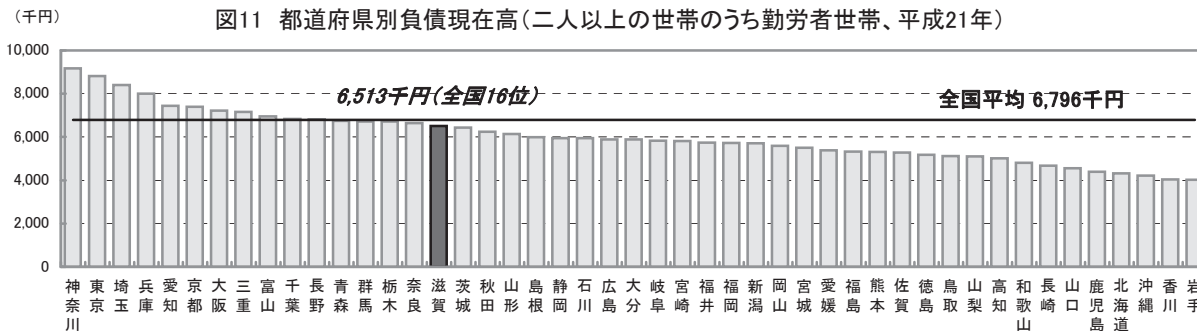
● 「貯蓄現在高」滋賀県は全国4位、香川県が最も多く、沖縄県が最も少ない

図10 都道府県別貯蓄現在高(二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21年)



● 「負債現在高」滋賀県は全国16位、神奈川県が最も多く、岩手県が最も少ない

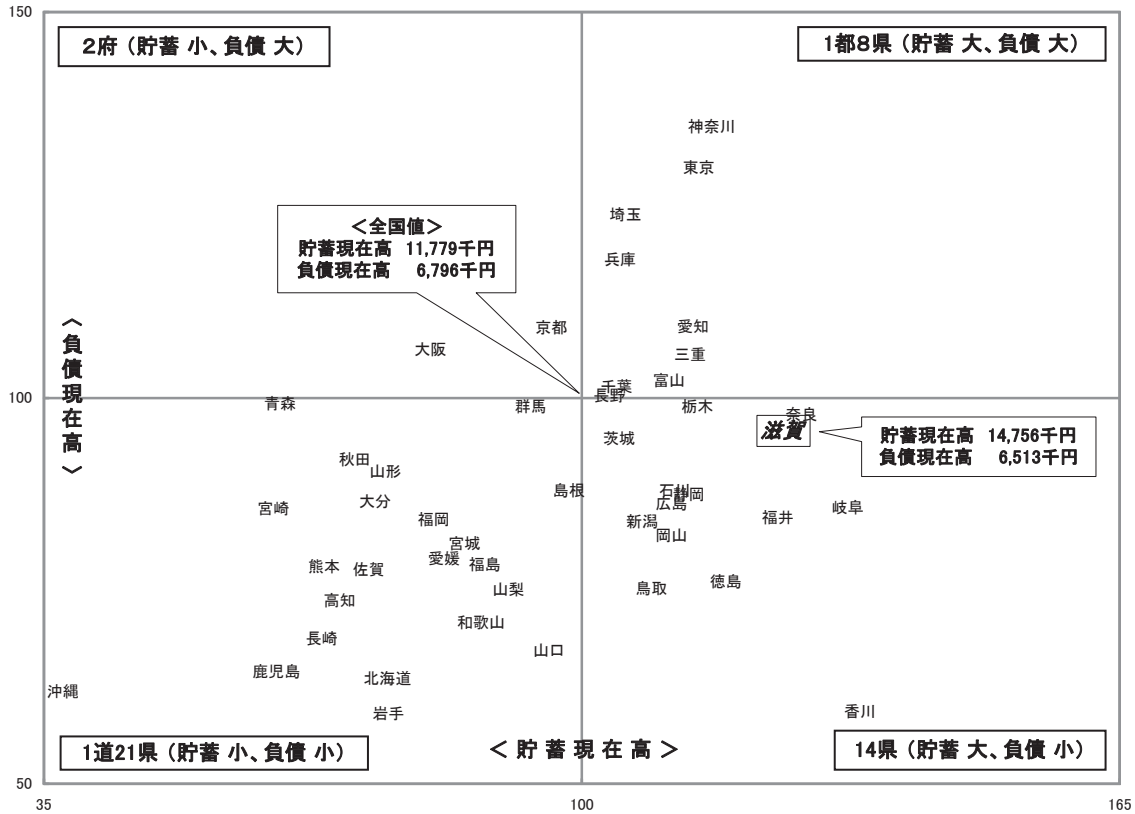
図11 都道府県別負債現在高(二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21年)



(1) 貯蓄現在高と負債現在高

平成21年の全国平均値を100とした場合、滋賀県の貯蓄現在高は 125.3と全国値を大きく上回り、一方、負債現在高は 95.8と全国値を下回っています。(図12)

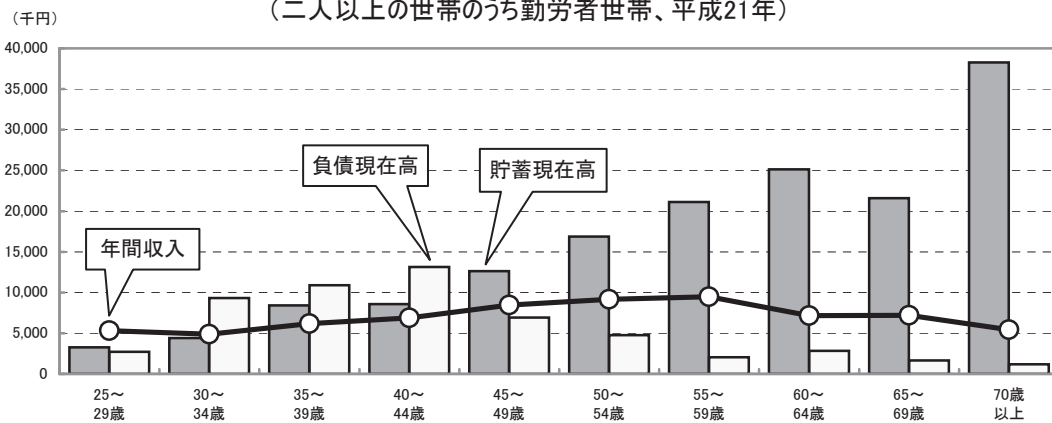
図12 都道府県別1世帯当たり貯蓄現在高および負債現在高の状況
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21年、全国=100)



(2) 世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高

平成21年の滋賀県の貯蓄現在高を世帯主の年齢階級別にみると、70歳以上が最も多く、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあります。一方、負債現在高は 40歳前半が最も多くなっています。(図13)

図13世帯主の年齢階級別貯蓄・負債現在高
(二人以上の世帯のうち勤労者世帯、平成21年)



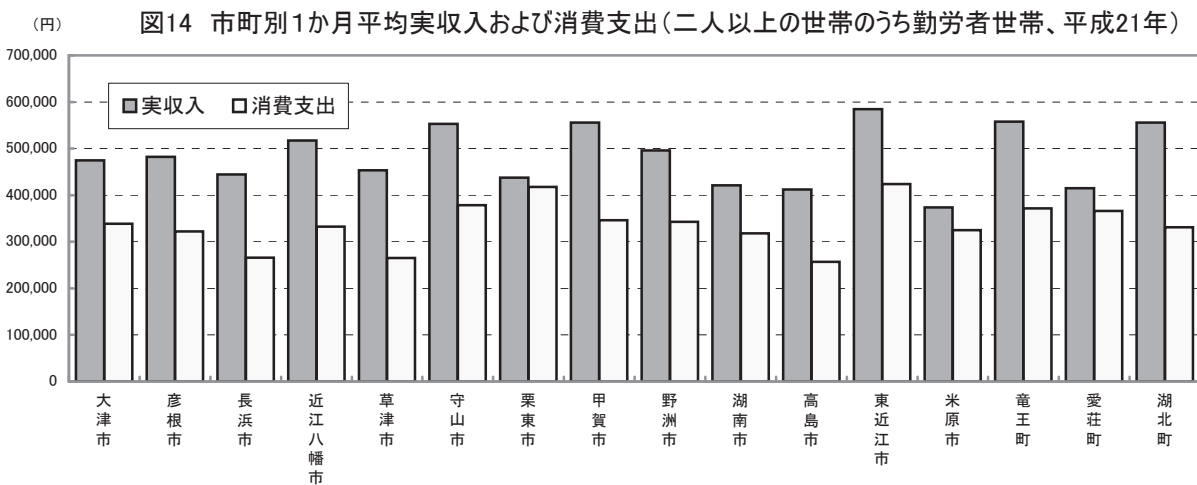
3. 市町別の家計収支および貯蓄・負債現在高 (二人以上の世帯のうち勤労者世帯)

今回の調査は、平成21年1月1日現在の全国全ての市(784市)と998町村から選定された219町村の中から調査が行われており、滋賀県においては、全市(13市)と13町から3町が選定され調査が行われました。

※利用上の注意事項 各市町における調査世帯数が少ないため、「各市町の平均」と考えず、あくまでも参考値としてご利用ください。

(1) 市町別の家計収支 《1世帯当たり1か月平均》

平成21年の市町別の実収入をみると、東近江市が584,294円で最も多く、米原市が373,993円と最も少なくなっています。一方、消費支出は、東近江市が424,076円で最も多く、高島市が256,994円と最も少なくなっています。(図14)



(2) 市町別の貯蓄・負債現在高 《平成21年11月末現在》

平成21年の市町別の貯蓄現在高をみると、湖北町が2540万8千円で最も多く、草津市が813万6千円と最も少なくなっています。一方、負債現在高は、草津市が1311万5千円で最も多く、高島市が129万8千円と最も少なくなっています。(図15)

